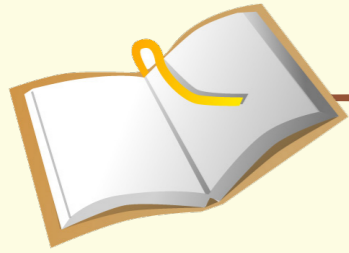


医師のコラム



# 失われた時を求めて — てんかん学的考察 —

脳神経外科 部長／てんかん外来担当 久保田有一 医師

フランスの小説家、マルセル・プルーストの失われた時を求めてという長編小説があります。プルースト自身の自伝的小説とも言われていますが、小説の中で、夢と現実を行き来した描写や、無意志的記憶の経験などの記述は、読んでみると、とても不思議な感覚に陥ります。たとえば、小説の一節に、“紅茶に浸した帆立貝型のマドレーヌを食べた瞬間、言いようのない不思議な感覚に襲われる”や、“長い時にわたって、私は早くから寝たものだ。ときには、ろうそくを消すと、すぐに目がふさがって、「これからぼくは眠るんだ」と自分にいうひまもないことがあった。それでも、30分ほどすると、もう眠らなくてはならない時間だというふうに目がさめるのであった。”という表現があります。なんとも、難しい表現です。またその時の意識の状態は、どうなっているのだろうか？と知りたくなります。

さて、今回は、てんかんの発作症状の“前兆”、“オーラ”についてご説明いたします。患者さんの訴えを詳細に聞く、“問診”は、診察の中で、最も大切な部分の一つで、また多くの診断・治療に必要な情報が隠されている部分です。このことは、どの診療科に共通していることであると思いますが、特にてんかん診療の中で、根幹をなしているところです。“前兆”は、言葉をみる限り、発作の前の症状と思われるかも知れませんが、前兆自身も発作です。てんかん学という言葉を用いれば、単純部分発作と呼びます。単純部分発作は、単純=意識障害がない、部分=脳の一部分から発生している、発作ということの意味します。ですので、前兆そのものは、決して超常現象や心霊現象でもありません。その前兆は、各患者さんの病態や、描写の仕方も変わってきますので、様々で、その前兆を伺っていると、とてもその不思議な世界に引き込まれていきます。以下に代表的な前兆を紹介します。

## 側頭葉てんかん

多いのが、“発作がきそうな感じ”、“くる一つという感じ”初めて側頭葉てんかんを発症した患者さんの多くがこのような訴えをします。ほとんどの患者さんは、いままで感じたことのない感覚であり、うまく伝えることができません。それもそのはず、普段の生活で感じたことのない新しい感覚を感じるからです。ま

たこの感覚の後、意識障害が引き続くことが多く、覚えていないことも少なくありません。

私が診察していた患者さんの中に比較的上手に表現できた患者さんが何人かおられ、その方々の言葉をお借りして紹介いたしますと、

- 頭の中に下から水がゆっくりと溜まっていく感じ。
- ゆっくりとドアが開いていき、その中に進むと、また次のドアが開く。そして、進むとさらに第三のドアがある。その後ゆっくりと意識がなくなっていく。
- 胃のあたりから、口に向かって、物がこみあげてくる感じ。
- すごく懐かしい感じ。昔、小さいころに、おばあちゃんと一緒に田んぼのあぜ道を歩いた、とにかくすごく懐かしい、こみ上げてくる感覚。
- 今まで、見たことのない情景なのに、過去見たことのある感じこれは、経験的前兆の一つで、デジャブ(既視感)と呼ばれております。時に、心霊現象や、超常現象などと言われてしまうこともあります。
- 恐怖感(背部から襲われそう)

これは発作が、側頭葉の内側の扁桃体と呼ばれるところから起始した場合、起こるといわれてます。実際、さまざまな研究より扁桃体は大脳辺縁系の一部に属し、特に情動に関わっている部分といわれております。

このように側頭葉てんかんの前兆は、経験的・情動的なものが多いといわれております。当初は、患者さん自身がうまく説明できなかつたり、発達障害などが併存しているとうまく言葉を用いて表現できない場合もあります。問診では、時間をかけて、その世界に戻り、ゆっくりと記憶から引出し聞き出すことが重要です。

## 前頭葉てんかん

前頭葉てんかんで、前兆を訴えることはほとんどありません。前頭葉てんかんでは、発作波が一瞬で全体の脳に拡がってしまうからです。突然、意識が途絶し、全身けいれん、多運動発作などに移行します。



## 頭頂葉てんかん

頭頂葉には、感覚野があります。ですので、その部位にてんかん発作の焦点があると、手、顔面、体感そして足など局在したしびれ感覚を前兆として訴えます。そのしびれも、疼痛に近いしびれから、軽く触れているような感覚、温度感覚の異常までさまざまです。多くが数十秒から数分続きます。また、頭頂葉には、連合野といいまして、人間の感覚の統合を行っている中枢があります。ですので、時に立体感の錯覚(たとえば、実際の物の大きさより大きく感じたり、ゆがんで見えたり)や、幽体離脱(自分自身を天井から見ている)のような感覚の前兆もあるようです(右の角回が発作焦点と言われています)。

## 後頭葉てんかん

後頭葉てんかんの患者さんの前兆は、多くが視覚に関わるものです。典型的な前兆は、視野の一部に白い点が光るというもの。時にカラフルな色が見えるという方もおられます。一方、視野が欠損するという前兆もあります。また、人や動物などより、具体的な対象が見えるという発作がある場合もあります。どうして、このような前兆の違いがあるのでしょうか？それは、発作に関わる脳の場所が違うからです。白い点が光るという単純な前兆は、後頭葉極といい、後頭葉の先端の部分が発

作に関与しており、色彩の発作は、よりその周辺で、人などの対象が見える発作は、より後頭葉でもより側頭葉側の舌状回という脳回が関与していることがわかっております。

このように前兆は、多彩であることがご理解いただけたでしょうか？

人間のすべての感情・感覚・記憶は脳で処理され、様々な形で表現されます。通常は、その処理が正常に行われ、一つの人間の個体としての脳として統制され、人間の生活の中のある程度共通した価値観の中で表現されています。しかしある一部の脳の興奮・そしてシナプス伝達のバランスが取れなくなった状態が、いわば、てんかん発作の状態です。その時に患者さんは、われわれ健常人が感じるのと同じでない、異次元に似るような不思議な感覚を感じるのでしょうか？

注意深く、患者さんの訴えを聞くこと、それにより発作の焦点が脳のどこより始まるのか推定でき、しいてはてんかん外科の手法にて発作焦点の切除が可能になります。

失われた時を求めて、を読んでいると、その記述が、ついでにてんかんの患者さんの‘前兆’のように感じるのは、わたくしだけで

## 第1回市民公開講座『てんかんの本当』開催しました。

8月18日(土)ベルセゾンにて、当院第1回目の市民公開講座『てんかんの本当』を開催しました。当日はお足下の悪雨中、126名の方にお越しいただきありがとうございました。参加いただいた方の感想を一部ご紹介します！

- 市民向けということもあり、とてもわかりやすかったです。特に、けいれんの映像があったので病気を理解しやすかったです。
- てんかんを精神病と間違っている現状を知ることができました。
- 病気について分かりやすく説明していただけたのでよかったです。包括的なチーム医療が日本でももっと力を入れて行われる事を願ってやみません。社会復帰がしやすい社会になってほしいです。

当日いただきましたご意見を参考に、他テーマでも定期的を開催して行きたいと考えています。

